

錦秋の戸隠山 (1,904m)

日程：2015年 11月 1日

メンバー：坂井康悦



岩峰の全体を戸隠山というのか。「戸隠山」の標識があるのは、中央のトンガリと思われませ

駅前から乗ったバスは、長野の街の中心になっている善光寺の脇を通り、戸隠・飯縄山へ向かって高度を上げ登って行った。白樺、カラマツがすでに紅葉して秋の柔らかい陽射しに映えて美しい。宝光社、中社からは沿道に宿坊が現われ、戸隠神社奥社入口に9時40分に着いた。拙宅のある、しなの鉄道の信濃追分駅の始発が6時半と遅く、登り始めがこの時間になってしまった。秋の行楽シーズンで、にぎわう参拝客を脇目に奥社への杉並木を急いだ。登山口の奥社に参拝し、上着を脱ぎ体温調整をし、登山モード。奥社の背後に、巨大な鋸が歯こぼれしたような峨峨たる岩山が大きく迫って、挑発しているようだった。昨年、スイスのグリンデルワルトの町並みから見たアイガー北壁を思い出した。

社務所脇の登山口からいきなりの急登であったが、体調が良く30分ほどで小尾根状の場所に出た。下から見た扇状の岩壁の左端下部を左巻きに進むと岩場の鎖場が現われる。長い鎖を頼りに腕力で直登すると案内地図上のキケン箇所、本日のハイライト「蟻の塔渡り」「剣の刃渡り」(いずれも標識があるわけではない)と言われる両側が切れ落ちたナイフエッジをなんとか通過。はずかしい話、バランス感覚が衰え、足がすくみ久しぶりに怖い思いをした。その後も鎖場を直登すると「八方睨み」(ここにも標識はない)といわれる眺望絶景のテラスに出、赤、緑、黄色の衣裳を織りなす錦秋の山並みを堪能した。眼下の奥社に続く杉並木が舞台上上がる回廊のように、ここだけ緑の線を描いていた。鏡池、大座法師池をはじめ大小の湖沼群が箱庭の錦絵の如く美しい。今年の紅葉は、例年になく美しいようだ。西方遠く槍ヶ岳の北アルプスの山並みは、すでに冠雪で筋状に薄化粧を作っていた。

ゆっくりと景色を堪能して、ここで引き返すか周回コースで戸隠牧場へ下りるか迷ったが、いつしか先の「一不動」へ向かっていた。一枚板に表示されただけの戸隠山頂を過ぎ、右は恐竜の背中が垂直に深く切れ落ちたような細尾根を行くと、正に竜の頭が突出しているような「九頭龍山」に着いたのは1時だった。前後に人気がなく心細い思いで、戸隠富士の異名がある「高妻山」を前方に見ながら登り下りを繰り返し、避難小屋のある一不動の分岐に着きほっとした。高妻山へはここから往復4時間、避難小屋で一泊しなければならないし、明日は雨との天気予報で今回は断念した。下りは一気に洩れ沢を下り、途中に一か所鎖場があったが、分岐から約1時間で牧場に着いた。60年前、中学校の夏の林間学校(「夏の学校」と言っていた)で、中社に3泊し、広々とした牧場を楽しくにぎやかに、皆と駆けずり廻って遊んだ遠い昔を思い出しながら、4時13分の長野行きバスに飛び乗った。今の自分には少々キツ目の山行だったが、達成感のある一日であった。